

## 検査データの基準値が変わります

当院の血液検査のデータを判断する際のめやす「基準範囲」が、4月から変更になりました。いままでは院内の平均値を使っていましたが、全国的な健康人の平均値を用いるようになったためです。

今までと大きく変わるのは尿酸値やコレステロール値などです。

	従来の基準値	新しい基準値
総コレステロール	128-220 mg/dl	142-248 mg/dl
LDL コレステロール	70-139 mg/dl	65-163 mg/dl

例えば悪玉コレステロールといわれる LDL コレステロールは 70-139mg/dl であったのが 65-163mg/dl に変更になります。正常範囲が広がったように誤解されやすいのですが、基準範囲は「正常範囲」ではないので気を付けなければなりません。動脈硬化性疾患の予防ガイドライン(2018)でも、140mg/dl 以上では 心血管疾患が増えるため脂質異常症と診断し、指導を含む治療介入が必要だとしています。

### なぜ基準範囲をかえたの？

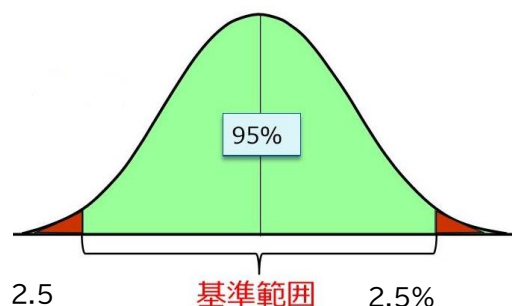
いくつか理由がありますが、一番は全国の医療・保健機関において、基準範囲がまちまちとなっていることでした。全国統計をとる時などに不都合が生じていました。

日本全国どこに行ってもいつ測っても同じ基準で検査結果を評価できるような基準値が必要だったということのようです。

## どのように基準範囲をきめたの？

病気がなく健康な日本人から採血し測定結果を集計すると右図のような山型になります。

このうち極端に高い数値と低い数値 2.5%づつを除き、健常者の95%が含まれる範囲を



基準値(基準範囲)としました。約 6000 人のデータを集計し 2014 年に日本臨床検査標準協議会が作ったもので多くの病院で使用されています。ただ コレステロールの例のように、疾病予防・治療・診断の判定のために用いられる「臨床判断値」と異なる項目があるため、当院では採用をみあわせていました。

## 基準値と正常値？

例えば 眼鏡やコンタクトをつけている人は 20-60 歳の日本人の 78%というデータがあります。半分以上の人がつけていることになるので 20-60 歳の基準値は「眼鏡やコンタクトをつけること」となりますが、それは正常であることとは違いますよね。基準値は必ずしも正常値ではありません。予防医学的な根拠から「臨床判断値」が 別に示されている項目については、検査の結果について主治医とよく相談して判断してください。

	新しい基準値	臨床判断値	ガイドライン
尿酸	3.7-7.8mg/dl(M)	7.0 以上は高尿酸血症	高尿酸血症治療ガイドライン
中性脂肪	40-234mg/dl(M)	150 以上は高 TG 血症	動脈硬化性疾患予防ガイドライン
HDL コレステロール	38-90mg/dl(M)	40 以下は低 HDL 血症	動脈硬化性疾患予防ガイドライン
LDL コレステロール	65-163mg/dl	140 以上は高 LDL 血症	動脈硬化性疾患予防ガイドライン

(M)は男性